

2010●図書館展示 4月



# 《魔笛》と《クラリネット協奏曲》

2010 年度基礎ゼミコンサート「音楽の力」参考資料展



企画・解説●市川啓子（国立音楽大学附属図書館総務部）

期間●2010年4月2日（金）～5月7日（金）

場所●図書館ブラウジングルーム・AV資料室

## 《魔笛》と《クラリネット協奏曲》

### 2010年度基礎ゼミコンサート「音楽の力」参考資料展

今年度の基礎ゼミコンサート「音楽の力」では、モーツァルトの最晩年の傑作歌劇《魔笛》序曲、第1幕ハイライトと《クラリネット協奏曲》が演奏されます。図書館では、参考資料展として、この2つの楽曲が作曲されたモーツァルト最後の年、1791年に焦点を当てながら、両曲に関する興味深い資料を選んで展示いたします。図書、楽譜、貴重楽譜は、ブラウジングルームの展示コーナー、CD、映像資料は、AV資料室をご覧ください。

コンサートで音楽の力、音楽の響きを味わったあと、図書館で参考資料展を眺めたり、様々な資料を利用したりして、響きの余韻をお楽しみください。

## Wolfgang Amadeus Mozart(1756-1791)



### 1791年(最後の年)

最後の年のモーツァルトは、プライドを捨て、新分野をふくむ多方面に手を伸ばすことによって、自己自身の活性化に成功した。…ここにたって、初心者にも手をさしのべる、やさしさを獲得したのである。モーツァルトの最後のページがこのように綴られたことを、われわれは喜ぶと思う。

磯山雅『モーツァルト=二つの顔』より

#### Contents

最後の年 1791を知るための図書-----	2
コンサート演奏作品 自筆の楽譜(ファクシミリ版)--	3
貴重楽譜-----	4
二つの作品の関連資料-----	5
図版パネル-----	8
最後の年 1791の作品年表-----	10

## モーツァルト 最後の年 1791 を知るための図書

### T1 『モーツァルト最後の年 1791』 H・C・ロビンズ・ランドン著 海老澤敏訳 中央公論社 2001

請求記号 C65-316

原書名: Mozart's Last year, by Howard Chandler Robbins Landon.(1988)

ヨーゼフ・ハイドンの研究者として知られていたロビンズ・ランドンが著した“モーツァルト三部作”の第一弾。続いて『モーツァルト黄金時代 1781-1791 年』(1989)、『ザ・モーツァルト・コンベンディウム モーツァルトの生涯と音楽への案内』(1990)を公刊し、モーツァルトの権威として世界的に認められるようになった。この著作は、1980年代前半に突如として登場し、世界中で大成功を収めた戯曲と映画、とくに映画『アマデウス』に対するアンチテーゼとして書かれたもので、序文で「モーツァルトの最後の年について、私たちが自由に使える同時代に書かれた真正な記録資料にもとづいた報告を踏まえて書くことが、新たにモーツァルトの友となり、讚美者となった多くの人たちにとって有益なこともかもしれない。」と述べている。そして、歴史家として正攻法の記録資料に基づく研究により、モーツァルトの「1791年に書かれた音楽の忘じがたい美しさをもつ秋色の世界」の理解へと、私たちを導いてくれる。

### T2 『モーツァルトの生涯 3』 海老澤敏著 白水社 1991

請求記号 C54-361 他

日本のモーツァルト研究者・海老澤敏氏によって、1984年に600頁に及ぶ大部なモーツァルト伝が著された。本書は、没後200年に当たる1991年に新書版として3分冊化されて刊行されたもの。モーツァルトのドラマティックな生涯の歩みを、残された一次資料と数多くの伝記研究の成果を元に、詳細に記したもので、本書には、第9章:巨匠期の光と影、第10章:迫り来る夕暮れ、第11章:最後の時が鳴る が収められている。最後の年の作品群については「作品のジャンルがはなはだ多彩、かつ多様であり、かつまたそれらの作品のすべてが、いずれも異常なまでに澄み切った音調をもち、しかも切々とした情調をにじませ、感動的な情趣をただよわせている」と述べている。また、時々刻々と記される最期の時にいたる様相は、資料に語らせるという押さえられた筆ゆえに、胸に迫るものがある。

### T3 『モーツァルト=二つの顔』 磯山雅 講談社 2000

請求記号 C64-553

基礎ゼミコンサートの企画を担当された本学の磯山雅教授による、数ある著作のうちのひとつ。モーツァルトに対する「無謬の天才」という一面的なとらえ方をただし、資料研究の進展を背景にした現代のモーツァルト研究の成果から、新しいモーツァルト観を構築している。特に第2章:「晩年の危機」の真実、第3章:民衆のなかへ 沃野開く最後の年では、魔笛 や アヴェ・ヴェルム・コルプス、クラリネット協奏曲 が生み出された最後の年に、モーツァルトの新しい価値観がどのように形成され、音楽に昇華されたかを知ることができる。

### T4 『モーツァルト書簡全集 ヴィーン時代後期』 海老澤敏・高橋英郎編訳 白水社 2001

請求記号 C65-638 他

原書名(底本): Briefe und Aufzeichnungen, Gesamtausgabe/ Mozart.(Bärenreiter, 1962-1975) 7vols.

この邦訳『モーツァルト書簡全集』は、現在、音楽学ならびにモーツァルト研究の総力をあげて刊行が続けられている『新モーツァルト全集』の一環として、1962年から刊行され、1975年に完結された『モーツァルト書簡と記録・全集』(全7巻)を底本として、編集ならびに翻訳がなされたもので、1965年に刊行計画が立てられてから、35年の歳月を経て全6巻として完結した大作である。この第6巻は、モーツァルトのヴィーン時代 - 1785年から、生涯を閉じる1791年まで のモーツァルトとそれを取り巻く人たちの手紙を訳出し、手紙と手紙をつなぐ「解説」が詳細になされている。(魔笛)と(クラリネット協奏曲)についても、詳しい知識が得られる。

## コンサート演奏作品 自筆の楽譜（ファクシミリ版）

### 演奏曲

#### 2幕のドイツ語オペラ《魔笛》K.620

#### Die Zauberflöte, K. 620

作曲年：1791年3月から9月にかけてウィーンで

初演：1791年9月30日 ウィーンのアウフ・デア・ヴィーデン劇場で

台本：ヨハン・エマヌエル・シカネーダー Johann Emanuel Schikaneder(1751-1803)

#### <解説>

モーツァルトが、最後に完成し、初演の指揮を行った作品で、この世紀のみならず、全オペラ史を通じて最高峰に位する曲の一つである。これほど簡明な構造・書法の音楽の中に、これほど至高の芸術性を湛えたものはまれである。…

『モーツァルト事典』（東京書籍）より X-044/M939/M

**T5 《魔笛》K.620 VED Deutscher Verlag für Musik 1979**

請求記号 H20-281

自筆楽譜は、彼の死後様々な人の間を巡った後、1977年にドイツ国立図書館に収められた。このファクシミリは、ダイアログ部分を除く全音楽が収められている。今回展示する部分は、第1幕でパパゲーノが登場して「おいらは鳥刺し」と歌いだす箇所。モーツァルトの筆跡から、創作当時の様子を垣間見ることができる。

### 演奏曲

#### クラリネット協奏曲 イ長調 K.622

#### Konzert für Klarinette und Orchester A-Dur K.622

作曲年：1791年10月初め、ウィーン

編成：独奏クラリネット

フルート2、ファゴット2、ホルン2、ヴァイオリン2部、ヴィオラ2部、バス

#### <解説>

モーツァルトがクラリネットのために書いた唯一の協奏曲であるこの曲は、ウィーン宮廷楽団に仕えるクラリネットの名手で、彼と同じフリーメイソン結社員でもあったアントン・シュタードラー (Anton Stadler 1753-1812)のために作曲された。モーツァルトが死の2ヶ月前に書いた彼の完成した形での最後の協奏曲である。モーツァルトの晩年の作品の特徴である清澄なスタイルのもとに、クラリネットの情緒豊かな音色が死期の迫ったモーツァルトの澄み切った心情を見事に描き出すこの曲は、彼の円熟した協奏曲様式を端的に示しており、モーツァルトのみならず、古典派の管楽器のための協奏曲の最高傑作として広く親しまれている。…

『モーツァルト事典』（東京書籍）より X-044/M939/M

**T6 《モーツァルト新全集》第5篇第14作品群第4巻 Bärenreiterより**

請求記号 A1-251

自筆楽譜は残念ながら消失している。近年の研究では、この作品は1791年10月初め頃に作曲が完成したと推定している。アラン・タイソンは、第1楽章のアレグロが、1787年に書いた（バセットホルンのための協奏曲楽章 ト長調）K<sup>3</sup>.584b=K<sup>6</sup>.621bとほぼ同一のことから、モーツァルトが最後の年にこれを改訂したものと考えている。新全集の編集者フランツ・ギーゼキングは、この巻で最初にバセットクラリネット用の復元版を置き、続いて従来のクラリネット版を収録し、補遺として、ト長調の（バセットホルン版）の断片楽章のファクシミリを加えている。今回の展示は、このファクシミリ部分のため、ト長調である。

**貴重楽譜** ・閲覧はマイクロフィルムです。

\*この頁は、当館「図書館展示2003年5月」配布資料より一部転載させていただきます。

**T7 《魔笛》 K.620**

ボン ジムロク 1812 年以降 ピアノ譜の後続版 請求記号 M3-543

初演の評判は必ずしも高くはなかったが、初演から1年経った1792年11月には200回の上演を記録している。楽譜も同様で、ピアノ・ヴォーカルスコアは1791年から1793年まで各部分が別々にウィーンのコジェルフの《音楽雑誌》から出版されたが、ほぼ同時に当時ウィーンにおける最大の出版社アルタリアからも出されて、何度も増刷された。ただし、アルタリアの楽譜は全曲ではない。この後も各地の出版社から次々とピアノ譜が出された。この楽譜は魔笛の出版史からみるとかなり後になる。歌詞はドイツ語とイタリア語。展示箇所は、第1幕第17場で、パパゲーノが銀鈴を振った時にモノスタートと奴隷たちが踊ったり歌ったりする場面。

**T8 《魔笛》 K.620 リブレット**

ハノーヴァー ボドゥヴィッツ 18世紀中ごろ 請求記号 M6-524

カットされた場面や入れ替わった場面等があって興味深い。

**T9 ベートーヴェン：**

《モーツァルトの《魔笛》から 恋を知る殿方には の主題による7つの変奏曲》 Wo046

ウィーン モッコ 1810 年ごろ 請求記号 M2-279

《魔笛》を愛したベートーヴェンはピアノとチェロによる変奏曲を2曲残している。内一つがこの曲で、他の一曲は 娘っ子が女房か の主題による12つの変奏曲 作品66である。

この楽譜は1802年にモッコ社から出版された原版譜を1810年ごろ同社が表紙を新しく刷り直し、新しい価格をつけて再版したもの。ピアノの楽譜のみで、チェロ・パートはない。

このWoO.46のテーマの箇所は、《魔笛》第1幕第14場で、パミーナが、「愛を感じる男たちには、やさしい心もそなわっているもの」と歌いだし、パパゲーノが「甘い愛の情けにともに感ずるは女のつとめ」と答えて二人で歌う二重唱部分である。

**T10 『中等唱歌集』に収められた《魔笛》**

高等師範学校附属音楽学校編 明治22年 大日本圖書 請求記号 M5-448

魔笛からの2曲が日本語の歌詞をつけられて掲載されている。第1幕第17場で、パパゲーノが銀鈴を振った時にモノスタートと奴隷たちが踊ったり歌ったりする時の音楽は 保昌 と題された。「保昌」とは平安中期の藤原保昌のことで武勇に優れた廷臣として有名。この歌詞は今昔物語巻25 第7話「盗賊袴垂が武威にうたれた話」を基にしている。京の大路を笛を吹きながら一人行く保昌を大盗賊袴垂が襲おうとするが、その隙のない態度に恐怖を覚え、逆に保昌から綿の衣をもらおうという話である。当時の富国強兵政策をほうふつとさせる書き換えであるが、まったく原曲の歌詞と無関係というわけでもない。作歌は、神津仙三郎。

第十一：保昌 の歌詞を以下に記しておく。

保昌：

尾花かれふす冬の野邊、ラララララララララララ、  
保昌、笛をふきすまし、ラララララララララララ、  
月かげすごく、よるももなか、つるぎもこしにかまえたれどうちかちがたきふえの音のみに、  
臆をうばはれつつ、つけゆく賊もめぐみのきぬに、ふたたびあせをながしけるぞ、  
尾花かれふす冬の野邊、ラララララララララララ、  
保昌、笛をふきすまし、ラララララララララララ

## 二つの作品の関連資料

### (魔笛)をさらに知るために

**T11** 『魔笛 秘教オペラ』 J・シャイエ著 高橋英郎・藤井康生訳 白水社 1976 請求記号 C25-958 他

原書名: La Flûte enchantée Opéra maçonnique, by Jacques Chailley.(1968)

「モーツァルトの傑作『魔笛』の舞台を見て、当惑しない観客はいないだろう」との出だしで始まるこの本は、筆者自身の疑問をきっかけにして、「フリーメイソン・オペラ」としての『魔笛』に、独自の神話的解釈を試みている。

### 台本作者:シカネーダー

**T12** 『魔笛とウィーン』 クルト・ホノルカ著 西原稔訳 平凡社 1991 請求記号 C54-895

原書名: Papageno - Emanuel Schikaneder; Der grosse Theatermann der Mozart-Zeit, by Kurt Honolka.(1984)

原書名を字義通りに訳すと「パパゲーノ エマヌエル・シカネーダー、モーツァルトの時代の演劇人」である。しかし、本書はシカネーダーの一代記にとどまらず、「ドイツ・オペラ」の開拓者でもあった興行主シカネーダーの生涯を描くことにより、1770～1800年のウィーン三十年間の舞台芸術全体、社会全体を描こうとしている。『魔笛』の章では、シカネーダーに批判的な立場と擁護する立場の論者が論争する形をとって述べられており、大変興味深い。

### (魔笛) 台本ファクシミリ

**T13** 『Mozarts Zauberflöte und ihre Dichter: Schikaneder, Vulpius, Goethe, Zuccalmaglio: Faksimiles und Editionen von Textbuch, Bearbeitungen und Fortsetzungen der Mozart-Oper』 Herausgegeben, von Werner Wunderlich, Doris Ueberschlag und Ulrich Muller. (Wort und Musik. Reihe, Libretti, Nr.4) Mueller-Speiser,2007

請求記号 J112-402

「モーツァルトの“魔笛”とその詩人 シカネーダー、ヴルピウス、ゲーテ、ツッカルマリーヨ」と題された本書には、シカネーダーによる 1791(魔笛)初演時の台本と 1798 補遺、及び(迷宮)の台本のファクシミリが収められている。また、ゲーテが試みた(魔笛)続編(第2部)も収められている。

### フリーメイソンとモーツァルト

**T14** 『モーツァルトとフリーメイソン結社』 パウル・ネットウル著 海老沢敏・栗原雪代共訳

(モーツァルト叢書 17) 音楽之友社 1981

請求記号 C32-596 他

原書名: Musik und Freimaurerei. Mozart und die königliche Kunst, by Paul Netti.(1956)

チェコ・ドイツ系の音楽学者、パウル・ネットウルにより 1956 年に刊行された『モーツァルトとフリーメイソン結社 モーツァルトと王者の術智』の全訳。モーツァルトのフリーメイソン音楽家としての活動を中心に、その前史、そして、18 世紀のフリーメイソン芸術の展望、そして、後代の眺望までも行った最初の書とされている。『魔笛』続編の章では、ゲーテがフリーメイソン思想により創作した『魔笛第二部』が詳細に紹介されていて、興味深い。

**T15** 『フリーメイソンのすべて その歴史・象徴・秘密』 W.カーク・マクナルティ著 武井摩利訳 創元社 2008

請求記号 J114-899

原書名: FREEMASONRY: Symbols, Secrets, Significance, by W. Kirk MacNulty.

モーツァルトとの関連ではなく、フリーメイソンとは？を理解するために最適な図書。豊富な図版と記述により、その歴史と思想、謎と秘密について理解することができる。最後の章「結社の兄弟たち 著名なフリーメイソン」の中にモーツァルトの名前が見られる。

### 姉妹作(賢者の石)

オペラ(賢者の石)筆写総譜は、第2次世界大戦中にドイツからソヴィエトに持ち去られていたが、1990年頃にロシアからハンブルクの図書館に返還された。1997年に、アメリカの音楽学者ブーフによって、作曲者の一人としてモーツァルトの名前が書き込まれていることが発見され、「モーツァルトの作品新発見！」として、大々的に報道された。礒山教授は、著書『モーツァルト 二つの顔』の中で、「モーツァルトは明らかに新しい価値観を、心に形成しつつあった。そのことを考えるうえで参考になる興味深い事実」として、この発見の意義について述べている。

### 台本

T16 『Schikaneders heroisch-komische Oper Der Stein der Weisen Modell für Mozarts Zauberflöte; Kritische Ausgabe des Textbuches』 Herausgegeben, mit Anmerkungen und einem Nachwort versehen von David J. Buch und Manuela Jahrmärker. Hainholz Verlag, c2002 請求記号 J102-710

オペラ(歌芝居)(賢者の石もしくは魔法の島)の台本とそれについての解説が収められている。この台本は、シカネーダーが1970年にアウフ・デア・ウィーン劇場で上演するために童話集『ジニスタン、あるいは妖精精霊物語選』を元に書いたとされる。上演を急いだため、作曲は5人が共同で関わった。第2幕のNo.4 DuettoとNo.10 Finaleの2曲(内1曲は猫の二重唱)にMozartの名前が見られる。「人物の設定や思想においても、また、その音楽の様式と楽想においても、並々ならぬ類似が存在している」と前掲書において礒山教授は述べている。

### CD

T17 『Der Stein der Weisen, oder Die Zauberinsel=The philosopher s stone, or The enchanted isle』Telarc ~ PHCT-5190 ~ PHCT-5191(日本) 請求記号 XD43264-66

1998年にマーティン・パールマン指揮、ボストン・カメラータによって演奏会形式で復活上演された世界初録音のCD。この日本版のCDには、日本語解説、および、パールマンによるモーツァルトの(魔笛)との比較による(賢者の石)解説の特典盤が付けられている。

### 楽譜

Der Stein der Weisen, ed. By David J. Buch. (Recent Researches in the Music of the Classical Era, C76) A-R Edition, 2007 発注中

1997年に新事実を発見した音楽学者デイヴィッド・ブーフによって、校訂・編集されたスコア。A-R Editionから叢書楽譜の1巻として出版された。当館では、現在未所蔵。

### 一次資料の復刻

T18 『W.A.Mozart: portfolio of a genius』 by Neal Zaslaw. Thornwillow Press, 1991

請求記号 C55-161

「モーツァルト 天才のポートフォリオ」と題されたこの大型復刻集は、アメリカの音楽学者ニール・ザスローを中心とした、リンカーン・センター・モーツァルト二百年祭スタッフの編集により、没後200年の命日を記念して出版された。序文によれば、「モーツァルトの生涯の全期間を提示し、彼の広範な活動と関心を、また、彼の取り巻く文化を把握し、・・・(中略)・・・モーツァルトの人柄、天賦の才、それに業績を明らかにする小窓を開けるような興味深い文書を提示する」といった目標を念頭において、世界各国のコレクションの中から、意義深い手稿の楽譜、手紙、初演のチラシ等の文書を集めて復刻し、注釈を付けて出版したとのことである。当館所蔵のものは、海老澤敏監修による日本語解説書付。今回、第21葉「(魔笛)と(レクイエム)のスケッチ」を展示する。

\*この他にも、図書館にはたくさんの関連資料があります。OPACで検索してみてください。

## (クラリネット協奏曲) 楽譜いろいろ

### T19 ベーレンライター社

請求記号 H17-891

Konzert in A für Klarinette und Orchester KV.622. Bärenreiter, c1977

モーツァルト新全集を刊行しているベーレンライター社から、実用版として刊行された楽譜。全集 -14-4(当館請求記号:A1-251)の中から、バセットクラリネット用の復元版を省き、従来のクラリネット版のみを収録して出版されたスコアのみの楽譜。解説は、なし。

### T20 ブライトコップ・ウント・ヘルテル社

請求記号 H28-221

Konzert für Klarinette und Orchester A-dur KV 622. Breitkopf & Härtel, c1987. Edition for Clarinet and Piano by Henri Kling, revised and edited by the Trio di Clarone(Sabine Meyer, Wolfgang Meyer, Reiner Wehle)

クラリネットとピアノ用に編曲された演奏用の楽譜。编者による詳しい序文が書かれている。そこには、ライプツィヒの一般音楽新聞(Allgemeine musikalische Zeitung, Leipzig)の1802年3月号に掲載された記事が載せられている。それは、1801年にブライトコップ・ウント・ヘルテル社が出版した(クラリネット協奏曲)の総譜に対する論評で、「モーツァルトはこの協奏曲を低音のCまで演奏できるクラリネットのために作曲したが、現在ではそのような楽器はほとんど使用されなくなったので、出版社が、クラリネットパートの音の改変をしてくれた...。」と記されていて、改変した箇所を引用しているとのこと。自筆譜は消失しているが、この楽譜では、最新研究や演奏者としての経験を元に、できる限りA管クラリネットで演奏しやすいように校訂したとのことである。

T21 Allgemeine musikalische Zeitung, 4 Jahrgang vom 1. Oct. 1801 bis 22. Sept. 1802(Leipzig, Breitkopf und Härtel) Reprint. 上記記事掲載箇所 請求記号 P0004/4

### T22 ヘンレ社

請求記号 H41-410

Klarinettenkonzert A-dur KV 622, Klavierauszug. Edited by Henrik Wiese. Piano reduction by Jan Philip Schulze. G. Henle Verlag, c2003

クラリネットとピアノ用編曲。独・英・仏語で编者ヘンリック・ヴィーゼによる序文と編集の注記が記されている。特徴としては、パート譜が2種類あることで、従来のA管クラリネット用とバセットクラリネット用楽譜が付されている。バセットクラリネット用では、1801年にブライトコップ・ウント・ヘルテル社が、通常のクラリネットでも演奏できるように1オクターヴ高く改変し、結果として不自然な跳躍になってしまった箇所などを元に戻している。

### T23 ショット社

請求記号 H16-681

Clarinet Concerto, First edition for the original instrument. Ed. by Alan Hacker. Schott Edition, c1974.

序文によれば、モーツァルトが作曲したオリジナルの楽器のための最初の楽譜であるとのこと。1967年、エルンスト・ヘスによる一般音楽新聞 Allgemeine musikalische Zeitung の記事の発見や、残されているト長調の自筆譜等の研究に基づいて校訂された初めての楽譜である。パート譜には、問題箇所は、どちらでも演奏可能なように記されている。

\* 当館には、このほかにもたくさんの実用譜がありますので、OPACで検索してください。その際、「人名」に「モーツァルト」または「Mozart」、タイトルに「クラリネット協奏曲」ではなく、「協奏曲 クラリネット」「Concertos clarinet」と入力してください。



## 図版パネル

### P1 モーツァルトの肖像 バルバラ・クラフト画 油彩 (1819年) ウィーン楽友協会蔵

モーツァルトを直接にモデルとして描かれたものではないが、彼の死後、当時の優れた女性画家バルバラ・クラフトにより描かれたこの肖像画は、クローチェ作「家族の肖像」や、消失した細密画等に基づくものと推定されており、最もモーツァルト自身に似ているとされている。

[Dreimal drei in Dur und Moll; Musiker, Freimauer, Bruder in Apoll, by Oberheide. (Verlag Deutscher Freimauer GmbH, 2009) ] 請求記号 J117-615

### P2 シカネーダーの肖像 フィリップ・リヒター作 銅版画

エマヌエル・シカネーダー Emanuel Schikaneder は、単にモーツァルトのオペラ(魔笛)の台本作家というだけではない。約百編に及ぶ芝居の作者であり、演出家、役者として活躍し、モーツァルトとベートーヴェンの時代を通じて、ウィーンにおける民衆劇場の無冠の帝王であり、「ドイツ・オペラ」の開拓者でもあった。モーツァルトの親友でもあり、フリーメイソンの仲間でもあった。

[『魔笛とウィーン』クルト・ホルカ著 西原稔訳 平凡社 1991] 請求記号 C54-895

### P3 (魔笛)初演のポスター 1791年9月30日

配役での注目。パパゲーノ役は台本を書いたシカネーダー。夜の女王役のホーファー夫人は妻コンスタンツェの姉。タミーノ役のシャックはモーツァルトの親友。海老澤敏訳を付す。

[Mozart und seine Welt in zeitgenössischen Bildern, Begründet von Maximilian Zenger, vorgelegt von Otto Erich Deutsch. (モーツァルト新全集 Serie X-32) (Bärenreiter, 1961)] 請求記号 J91-979

### P4 (魔笛)初演時のプログラム 手書きの彩色下図

ベルリンの国立図書館音楽部門に所蔵されている初演時の彩色下図。内容は、P3と同一。

[Dreimal drei in Dur und Moll; Musiker, Freimauer, Bruder in Apoll, by Oberheide. (Verlag Deutscher Freimauer GmbH, 2009) ] 請求記号 J117-615

### P5 (魔笛)初版台本挿絵 イグナーツ・アルベルティ作 1791年 ウィーン 銅版画

イグナーツ・アルベルティは、フリーメイソンで、モーツァルトの盟友。初版の挿図は、出版者アルベルティ自身が彫った。初版の標題紙の見開き部分に付されている挿図。フリーメイソンの「反省の部屋」とされており、古代エジプト風の閉じられた空間には、種々の象徴が配され、いくつかの入口が、闇から光への歩みを示唆している。後の版では、削除されている。

[Mozart und seine Welt in zeitgenössischen Bildern, Begründet von Maximilian Zenger, vorgelegt von Otto Erich Deutsch. (モーツァルト新全集 Serie X-32) (Bärenreiter, 1961)] 請求記号 J91-979

### P6 (魔笛)初版台本挿絵 イグナーツ・アルベルティ作 1791年 ウィーン 銅版画

初版の4頁から5頁の間に付されている挿図。シカネーダーがパパゲーノ役の衣装を着けている絵。当時43歳であるが、不思議と若く、描かれている。

[Mozart und seine Welt in zeitgenössischen Bildern, Begründet von Maximilian Zenger, vorgelegt von Otto Erich Deutsch. (モーツァルト新全集 Serie X-32) (Bärenreiter, 1961)] 請求記号 J91-979

### P7 (魔笛) 舞台図 ヨーゼフ&ペーター・シャッフナー作 彩色銅版画 1793年頃

1795年ブルノで刊行された「汎ヨーロッパ・ジャーナル Allgemeines Europäisches Journal」に掲載された銅版画。1793年のブルノでの上演の舞台を描いているが、初演時のおおよその形が類推できる。展示パネルは、第1幕の2枚。

[Mozart und seine Welt in zeitgenössischen Bildern, Begründet von Maximilian Zenger, vorgelegt von Otto Erich Deutsch. (モーツァルト新全集 Serie X-32) (Bärenreiter, 1961)] 請求記号 J91-979

**P8 ウィーンのフリーメイソンの参入儀礼を描いた絵 作者未詳 油絵 1780 年代 ウィーン市立歴史博物館蔵**

モーツァルトが所属していた支部「新・授冠の希望」の入会式の模様が描かれている。階位儀礼への参加は、自己の内面への洞察を与えてくれる感動的な経験であったという。右端に座っている人物がモーツァルトだと言われている。

[Dreimal drei in Dur und Moll; Musiker, Freimauer, Bruder in Apoll, by Oberheide. (Verlag Deutscher Freimauer GmbH, 2009) ] 請求記号 J117-615

**P9 フリーメイソンの〈親方〉位階の徽章をつけたモーツァルト**

J.クエス=シャイヒェルバウアーが彼の著書「オーストリアにおける 200 年のフリーメイソン結社」の中で出典を示さずに転載している。おそらく 19 世紀の匿名画。ウィーンの O.ケリー出版社の好意ある許可を得て転載されたもの。

[『魔笛 秘教オペラ』 J・シャイエ著 高橋英郎・藤井康生訳 白水社 1976] 請求記号 C25-958

**P10 クラリネット奏者 アントン・シュタードラーの影絵 詳細不詳**

モーツァルトがウィーンに住むようになってから知り合って、意気投合した音楽家。ウィーンの宮廷オーケストラに“最初のクラリネット奏者”として採用された、当時並ぶものがないと言われたほどの名手。ウィーンのフリーメイソンのメンバーでもある。最後の年、彼に頼まれて書き上げられてのが、不朽の名作(クラリネット協奏曲 K622)である。

[『フルート協奏曲/オーボエ協奏曲/クラリネット協奏曲:モーツァルト』(クラシックコンサート 第14巻) 毎日新聞社 2000] 請求記号:C64-789

**P11 ウィーン時代のモーツァルトのレリーフ レオナルト・ボッシュ作 1789 年 ウィーン**

ボッシュによるこの石膏メダルは、この作家の手になる多くの類似品のひとつとされている。モーツァルトは、後年ウィーンに移ってからは、自毛を鏝(こて)でカールさせて結っていたと言われており、そのファッションを見ることができる。

[『モーツァルト名曲事典』 音楽之友社 1992] 請求記号:X-044/M939/M

**P12 モーツァルト最後の肖像 ドーリス・シュトック作 銀尖筆画 1789 年 ライプツィヒ市立図書館蔵**

1789年、ベルリン旅行の際に訪れたドレスデンで、モーツァルトは、当地のザクセン宮廷高等宗教局評定官クリスチャン・ゴットフリート・ケルナーを訪問した。その妻の姉、ドーリス[ヨハンナ・ドロテア]・シュトックは画筆に長けた女性で、モーツァルトは彼女の肖像画のモデルとなった。モーツァルトの最後の肖像画とも言えるこの絵は、快活そうな中にもどこか悲しげな陰のある表情が印象的で、晩年のモーツァルトを偲ばせる小傑作である。

[『モーツァルト書簡全集 ヴィーン時代後期』 海老澤敏・高橋英郎編訳 白水社 2001] 請求記号 C65-638

**P13 画家ドーリス・シュトックの肖像 銀尖筆画 詳細不詳**

1789年に、ドレスデンでモーツァルト最後の肖像画を描いたとされる、女性画家ドーリス[ヨハンナ・ドロテア]・シュトック(1760-1832)の肖像画。

[『モーツァルト書簡全集 ヴィーン時代後期』 海老澤敏・高橋英郎編訳 白水社 2001] 請求記号 C65-638

**P14 死の床のモーツァルト ベンによるスケッチ画 詳細不詳**

「フローベルガー」というサインがあるが、この名前の画家については未詳。実際のスケッチではないが、死の床に伏すモーツァルトと周囲の人々の様をイメージとして描いたものと思われる。

[『モーツァルト全集』 第1巻 解説書 海老澤敏ほか著 日本フォノグラム 1990] 請求記号 XD11172-183

## モーツァルト 最後の年 1791 の作品年表

\*この頁は、当館「図書館展示2003年5月」配布資料より転載させていただきます。

社会状況 6. ルイ 16 世パリ脱出失敗 8. ビルニッツ宣言(ヨーロッパの君主はフランス王家を擁護) 9. フランス新憲法制定、立法議会成立

1.5	(ピアノ協奏曲 変ロ長調) K.595 作曲。
1.14	リート3連作(春への憧れ)(春の初めに)(子供の遊び) K.596-598 作曲 『子供と子供の楽しみのための歌曲集』に収められている。アルベルティより出版。
1.23-2.28	宮廷舞踏用舞曲 K.599-602, 604, 605 作曲 宮廷作曲家としての仕事。
3.3	(自動オルガンのためのアレグロとアダージョ) 八長調) K.608 作曲 「ミュラーの芸術ギャラリー」の自動オルガンのための曲を依頼される。
3.4	(ピアノ協奏曲変ロ長調) K.595 をクラリネット奏者ヨーゼフ・ペーアの演奏会で演奏。ピアニストとしての最後の演奏会。
3.6	(コントルダンス ト長調) K.610、(ドイツ舞曲 八長調) K.611 作曲。
3.8	(このうるわしい御手と瞳のために) K.612 シカネーダー一座の歌手ゲルルとコントラバス奏者ピッシュベルガーのために作曲。
3.	(シャックの「愚かな庭師」のリートによる「女ほど素敵なものはない」の主題による8つの変奏曲 ヘ長調) K.613 シカネーダー一座のテノール歌手兼作曲家シャックの曲。「愚かな庭師」の原作はシカネーダーで 1789.9.26 にウィーンで上演された。
3.	この頃《魔笛》作曲をシカネーダーから依頼される。
4.12	(弦楽五重奏曲 変ホ長調) K.614 作曲。依頼はハンガリー人の音楽愛好家ヨハン・ペーター・トスト。
4.	《魔笛》の作曲に集中的に取り組む。
5.4	(自動オルガンのためのアンダンテ) K.616 作曲 「ミュラーの芸術ギャラリー」からの依頼。
5.9	ウィーン・シュテファン教会の副楽長(無給)に任命される。
5.13	(グラス・ハーモニカのためのアダージョとロンド) K.617 依頼はグラス・ハーモニカの名手マリアンネ・キルヒゲスナー。
6.8	バーデンに行く。(妊娠中のコンスタンツェは長男カールとバーデンで療養中) バーデンとウィーンを頻りに往来。
6.10	(グラス・ハーモニカのためのアダージョとロンド) K.617 初演 ブルク劇場。
6.11	ウィーンに戻る。《魔笛》第2幕第11場「僧侶の2重唱」まで完成。
6.17	(アヴェ・ヴェルム・コルプス) K.618 作曲 バーデンで療養中の妻コンスタンツェの世話をしてくれた教師アントーン・シュルトへ感謝をこめた作品。
7.2	バーデンにいたジュースマイヤーに《魔笛》の楽譜(第1幕導入からフィナーレ)を送り返すように手紙を書く。
7.	《魔笛》第1幕の総譜づくりに入る。
7.	シカネーダーが用意した劇場近くのあずまやで《魔笛》に集中。
7.9~11	バーデンに滞在。

7.12	ウィーンに戻る。見知らぬ男が訪問。(レクイエム)の作曲を依頼される。依頼主はヴァルゼック=シュトゥパハ伯爵。
7.16	皇帝レーオポルト2世のボヘミア王戴冠記念式典のために(皇帝ティートの慈悲)の作曲を依頼される。
7.26	四男フランツ・クサーヴァー誕生。
7	(ドイツ語小カンタータ「無限なる宇宙の創造者を崇敬する汝らが」)K.619 作曲。フリーメイソンの会員ハンプルグの商人ツィーゲンハーゲンから依頼される。
8.10	(舞曲)K.599-602,604、605のピアノ譜がアルタリアから出版される。
8.19	(グラス・ハーモニカのためのアダージョとロンド)K.617 再公演 ケルトナートーア劇場。
8.24	妻コンスタンツェと弟子ジュースマイヤーとともにプラハへ行く。28日に到着。
9.2.	プラハで(ドン・ジョヴァンニ)の指揮。
9.5	(皇帝ティートの慈悲)K.621 作曲。
9.6	(皇帝ティートの慈悲)初演 プラハ 国立劇場
9.10	プラハのフリーメイソン分団を訪問。(フリーメイソンの喜び)が演奏される。
9.15	ウィーンに戻る。
9.28	《魔笛》K.620「序曲」「僧侶たちの行進」を作曲。全曲完成。
9.29	《魔笛》総練習。
9.30	《魔笛》アウフ・デア・ヴィーデン劇場で初演。指揮モーツァルト。
9.28 ~ 11.15.	(クラリネット協奏曲 イ長調)K.622 作曲。クラリネットの名手アントーン・シュタードラーのために作曲。
11.15	(フリーメイソン小カンタータ「われらが喜びを高らかに告げよ」)K.623 作曲。フリーメイソンの<新授冠の希望>分団の新会堂の献堂式のために作曲。
11.18	(フリーメイソン小カンタータ「われらが喜びを高らかに告げよ」)K.623 新会堂の献堂式で初演、指揮はモーツァルト。
11.20	病床に臥す。
12.4	容体悪化。
12.5	午前0時55分死去。

\* (レクイエム)K.626 は未完に終わる。ジュースマイヤーにより1792年中頃に補筆完成される。初演:1793年1月2日、ウィーン。



年表作成: 染谷周子・市川啓子(加筆)

参考文献: 『モーツァルトの生涯 3』海老澤敏著

『モーツァルト書簡全集 ヴィーン時代後期』海老澤敏・高橋英郎編訳

2010 図書館展示 4月

ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト  
1756-1791

## 《魔笛》と《クラリネット協奏曲》

展示パンフレットは図書館ホームページからも入手できます。(バックナンバーも公開しています。)

<http://www.lib.kunitachi.ac.jp/tenji/tenji.htm>

2010.4.5 編集 国立音楽大学附属図書館広報委員会:二塚恵里・撰正弘

参考資料: 『モーツァルト=二つの顔』磯山雅 講談社、 『モーツァルトの生涯』海老澤敏 白水社、 『モーツァルト全集』小学館、 『モーツァルト事典』東京書籍

【注:地名「ウィーン Wien」の表記について】 紹介図書で「ヴィーン」と表記されているもの以外は、『世界地名大事典』(朝倉書店)に従い、「ウィーン」と記しました。